

# 第16回大会報告記

岡野浩史

第16回日本アイリス・マードック学会は、京都の南、宇治市にある京都文教大学で、2014年10月25日（土）に開催された。午後1時から総会があり、塩田会長から参加者と今回の研究発表者に対する感謝のことばがあり、来年度もさらに積極的な参加をしてほしい旨の呼びかけがあった。次に、事務局から午前中に行われた理事会についての報告があった。来年度の開催校は東京の青山学院大学あるいは慶応大学の予定、開催日について

は開催校の日程を最優先で決めることになるので未定であるが、10月か11月になるとの報告があった。<sup>\*</sup>また、榎本副会長が勇退し、後任に理事の井上澄子氏が選任されたことの報告のあと、井上氏からは20000円の賛助金が寄せられたことが披露された。さらに、理事には新たに、これまでニューズレターの編集を務めてきた大道千穂氏が選任されたとの報告があった。

理事会報告のあと、事務局から住所変更などに

ついてはすみやかな連絡をしてほしいとの依頼があった。また、来年度の学会において、研究発表がなければ、学会の存亡にも関わるので、積極的な応募を期待する旨の訴えがあった。そのあと、2013年度の会計の決算報告、2014年度の会計中間報告、2014年度予算案が承認された。また、学会のインターネット上のホームページが別のサーバーとなり、管理費も安くなったことが報告された。

今年の研究発表の最初の中窪靖氏の「マードックの *The Black Prince* とマキューアンの *Saturday* を比較する——BTタワーが象徴するもの——」と題するものであった。司会は筆者が務めた。中窪氏はBTタワーの使われている場面を取り上げて具体的に検証し、マードックの場合と現代イギリスを代表する小説家イアン・マキューアンの場合との違いを説得力をもって論じた。発表後、司会から *Saturday* について補足的な説明があり、そのテーマがマードックのテーマにもつながる可能性が示された。

次の発表は「*The Nice and the Good* を力の行使の視点から読む」と題して内藤亨代氏が行った。司会は橋本信子氏が務めた。内藤氏は作品中における各人物が、それぞれが持っている他者に対する力をどのように行使し、その行使を通じて、人物がどのように変わっていくかを、特に主人公を中心に例証した。そして、この作品のテーマが *The Nuns and Soldiers* にもつながっていることも提示された。随所に、内藤氏の哲学者としての知見が披露され、文学プロパーの多い聴衆にとっては得るところの多い発表となった。

3人目の発表者は塩田勉氏。司会は大槻美春氏であった。発表のタイトルは『『海よ、海』におけるポストコロニアリズムの影』である。塩田氏は同作品のなかのポストコロニアリズムを示唆する単語や語句を丹念に拾い上げ、さらに植民地支配に関連する固有名詞を調べ上げ、そこから主人公たちの支配の構図を比較して植民地支配的構造をあぶりだしていった。マードックはその道徳性が強調されて読まれることが多いが、政治にも関心が強かった。塩田氏の読みはマードックの作品の新たな豊かな読みの可能性を感じさせるもので

あった。

第16回大会の研究発表の掉尾を飾ったのは、平井杏子氏であった。司会は井上澄子氏。平井氏は「テムズ川とアイリス・マードック」と題して、マードックの作品に頻繁に登場するテムズ川に、マードックは歴史的な関心はほとんどなく、その水自体に意味を持たせていることが具体例によって指摘された。夫ジョン・ベイリー氏の証言やガストン・バシュラールの水に関する考え方なども援用しながら、刺激のかつ説得力に富む論が展開された。個々の作品に対する深い読みも印象的であった。

今年の学会の最後の企画は京都橘大学名誉教授志賀亮一氏による「紳士は妖婦がお好き *Gentlemen Prefer Femme-Fatales*——ヨーロッパ史を貫く三つの女性表象——」と題する特別講演で、司会は学会会長である塩田勉氏が務めた。志賀氏はヨーロッパにおいて作られてきた女性の図像が基本的に「母・妻・妖婦」のどれかに還元されるとする。志賀氏は「母」と「妻」の双方を代表するのは聖母マリアであり、「妖婦」の典型はイヴであるとし、ヨーロッパの女性の図像の製作者たちは特に「妖婦」に魅了されてきたのではないかという極めて興味深い論を多数の図像を例に展開した。文学研究者にとっても示唆するところの多い講演だった。深く感謝したい。

学会終了後、京都駅そばの京都センチュリーホテルに場所を移して懇親会が行われた。特別講演講師の志賀氏、四国から学会に参加してくれた、塩田会長の知人である青木春男氏の参加も得て、約2時間の談笑の後、来年の再会を約して解散となった。

今回、会場を提供してくれた京都文教大学の中窪靖氏は周到な準備と細やかな心遣いで学会を支えてくれた。深く感謝する次第である。

\* 後日、2015年度の学会は11月21日（土）に青山学院大学で行われることが決定した。